

## 教 員 個 人 調 書

履 歴 書	
フリガナ	ドウシタ メグミ
氏 名	堂下 恵
学 歴	
年 月	事 項
平成4年 4月	慶應義塾大学経済学部経済学科 入学
平成8年 3月	慶應義塾大学経済学部経済学科 卒業、学士(経済学)を取得
平成11年 9月	ロンドン大学ユニバーシティカレッジ地理学部修士課程 入学
平成12年 9月	ロンドン大学ユニバーシティカレッジ地理学部修士課程 修了 修士号取得 (M. Sc. in Public Understanding of Environmental Change、平成12年11月授与)
平成12年 9月	ロンドン大学東洋アフリカ学院地理学部修士課程 入学
平成13年 9月	ロンドン大学東洋アフリカ学院地理学部修士課程 修了 修士号取得 (M. Sc. in Tourism, Environment and Development、平成13年12月授与)
平成14年 4月	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻文化人類学分野博士課程 入学
平成17年 3月	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻文化人類学分野博士課程 単位取得退学
平成22年 3月	東京大学大学院総合文化研究科より博士号授与、博士(学術)を取得
職 歴	
年 月	事 項
平成8年 4月	黄桜酒造株式会社 入社(東京支店配属、小売店対象市場調査・販売促進プロジェクト等を担当)
平成11年 4月	黄桜酒造株式会社 退社
平成16年 4月	日本学術振興会特別研究員(DC2) 採用
平成17年 3月	日本学術振興会特別研究員(DC2) 常勤職就職のため辞退
平成17年 4月	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 助手(平成18年3月まで)
平成18年 4月	金沢星稜大学経済学部 専任講師
平成22年 4月	金沢星稜大学経済学部 准教授に昇格
平成24年 3月	金沢星稜大学経済学部 退職
平成24年 4月	多摩大学グローバルスタディーズ学部 准教授(現在に至る)
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等	
現在所属している学会	日本文化人類学会、日本民俗学会、現代民俗学会、日本観光研究学会、総合観光学会 International Union of Anthropological and Ethnological Sciences、International Sociological Association
年 月	事 項
平成19年 2月	金沢大学・金沢星稜大学共催 リージョナル・ツーリズム・フォーラム 副代表(平成24年3月まで)
平成22年 3月	石川県白山市 白山ろく地域活性化策定会議委員(平成23年3月まで)
平成22年 7月	石川県白山市 吉野工芸の里整備計画策定委員会委員(平成23年7月まで)
平成23年 4月	Anthropology of Japan in Japan 春季定例ワークショップ運営責任者(テーマ:コミュニティ)
平成23年 12月	北陸人類学研究会(日本文化人類学会北陸支部)第122回例会運営責任者(テーマ:ジェンダー)
平成24年 8月	神奈川県藤沢市 江の島サムエル・コッキング苑指定管理者審査選定委員会委員(平成25年3月末まで)
平成24年 8月	神奈川県藤沢市 江の島岩屋指定管理者審査選定委員会委員(平成25年3月末まで)
平成26年 3月	神奈川県藤沢市観光振興計画見直し検討会議参画(平成26年5月まで)
平成27年 7月	(社)藤沢市観光協会藤沢・江の島多言語観光Web Site事業者選定委員会委員(平成27年8月まで)
賞 罰	
年 月	事 項
平成20年 1月	大学コンソーシアム石川「平成19年度地域課題研究ゼミナール支援事業」優秀賞受賞(堂下ゼミ)
平成23年 2月	大学コンソーシアム石川「平成22年度地域課題研究ゼミナール支援事業」優秀賞受賞(堂下ゼミ)

## 教 育 研 究 業 績 書

平成 29年 3月31日

氏名 堂下 恵 印

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
文化人類学、観光人類学		観光、環境、資源、地域活性化	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
1) 自作のPowerPointスライドや印刷物、各種団体制作の動画等を活用した講義形式による観光関連科目(観光文化社会論、観光地歴論、レジャー概論)の授業の実施	平成18年4月－ 平成24年3月	金沢星稜大学経済学部にて観光関連科目(観光文化社会論、観光地歴論、レジャー概論)の講義を40-80人程度の履修者を対象に実施、自作のPowerPoint形式のスライドや印刷物、ならびに石川県や金沢市等の各種団体が制作した動画、板書等を活用して、文化人類学、社会学、地理学等の観光・レジャー研究を基にした授業を実施した。講義の中では、履修者の理解度を深めるため、日本および世界の文化や社会に関する事例を多く紹介しており、一例を挙げるなら岩手県遠野地方およびイギリス・湖水地方のふるさと観光やアイヌならびに北欧の先住民サーミのエスニック・ツーリズム等である。授業では、ほぼ毎回、学生に課題の提出を求めた。	
2) 英語教材、ならびに英語の雑誌・新聞記事やインターネット情報等を活用した自作の資料による一般英語の教育指導	平成18年4月－ 平成22年3月	金沢星稜大学経済学部1年次必修英語の科目を担当し、40人程度の履修者を対象に初中級/中級レベルの英語を教えた。大学生向けの英語教材を中心に、英語の雑誌・新聞記事、インターネット情報等を活用した自作の資料や映画等の動画も使い、実際に使われている英語に触れる機会をできるだけ作りながら、履修者の総合的な英語力が向上するように指導した。金沢星稜大学の方針でTOEIC-Bridgeの受験に向けた対策もおこなった。	
3) 少人数授業によるビジネスイングリッシュの教育指導(日英バイリンガルでの授業を含む)	平成19年4月－ 平成24年3月	金沢星稜大学経済学部にてビジネスイングリッシュの科目を担当し、20人程度の履修者を対象にビジネスに必要な基本的な会話や文書作成方法を教えた。大学生向けに作成された教科書を用いつつ、コミュニケーションに関しては基本的な会話を練習した後にロールプレイングによる応用練習をおこない、ライティングについては、学生自身による英語の履歴書や、金沢星稜大学の教職員を同僚・上司と見立てたメール等のビジネス文書の作成・修正等を指導し、実際に社会人となった後に授業の内容が現場で生かせるように工夫して教えた。海外からの交換留学生が履修した年次においては、留学生の語学力を配慮し、ほぼ全ての説明を日本語と英語の両方でおこなった。	
4) ゼミナール形式による観光研究の文献の輪読、国内外の各種統計資料の分析、質的調査方法習得のためのワークショップ等を取り入れた卒業論文執筆指導	平成19年4月－ 平成26年3月	金沢星稜大学経済学部3-4年次専門ゼミナール科目の授業として、毎年15-18名の学生を対象に観光やレジャーをテーマとする卒業論文(18000字程度)の執筆にかかる指導を実施している。3年次の専門ゼミナールIでは、観光研究に関する基礎文献の輪読や各種統計資料の分析方法を指導している。基礎文献や統計資料は国内外の文書を活用し、学生が国際的な感覚で観光・レジャーを捉えられるように工夫している。4年次での専門ゼミナールIIでは、各自が選んだテーマによる卒業論文執筆指導をおこなっている。卒業論文研究でアンケートやインタビューを実施する学生には、質的調査についてのワークショップをおこない、その上で調査票の内容やインタビューの計画について個別指導を実施している。金沢星稜大学では卒業論文についての口頭発表が課せられるので、その指導もおこなった。	

<p>5) 文化の保存や地域社会の活性化に貢献する地域課題研究プロジェクトを実施することによる質的調査の現地教育指導</p>	<p>平成19年度、平成21年度、平成22年度</p>	<p>金沢星稷大学3-4年次専門ゼミナール科目の授業の一環で、大学コンソーシアム石川の支援事業を活用した調査研究プロジェクトを実施し、現地教育指導をおこなった。具体的には、平成19年度は石川県奥能登地域の伝統祭礼「キリコ祭り」の活性化、平成21年度は石川県白山市における観光振興、平成22年度は国指定重要民俗無形文化財である石川県七尾市の「熊甲二十日祭の杵旗行事」の保存と継承、ならびに石川県白山市の若者移住促進の、4つの調査研究プロジェクトを実施した。これらのプロジェクトを通じて、ゼミナール履修学生には参与観察やインタビュー、アンケートを活用した質的調査の実施方法を指導した。</p>
<p>6) 英語圏（ニュージーランド・オーストラリア）への海外実習の企画、運営ならびに引率</p>	<p>平成19年夏期 平成20年夏期 平成22年夏期</p>	<p>金沢星稷大学経済学部にて国際観光実習（平成22年度は「観光実習」に名称変更）を担当し、海外実習での教育指導を実施した。具体的には、各年4-5人の学生をニュージーランド（平成19年）ならびオーストラリア（平成20・22年）へ引率し、ホームステイによる異文化交流体験や現地の観光カレッジでの模擬授業、学生によるツアー企画を実施・指導した。参加学生には渡航前に8回程度の事前指導を実施し、実習後は異文化理解についての成果発表ならびにレポート執筆の指導をおこなった。なお、現地受け入れカレッジや渡航手配担当の旅行業者との渉外も業務としておこなった。</p>
<p>7) ゼミナール形式によるエスノグラフィー（民族誌）の読書案内を活用した文化人類学入門の教育指導</p>	<p>平成22年4月－ 平成25年3月</p>	<p>金沢星稷大学経済学部における2年次設置科目「基礎ゼミナールⅡ」において、18名程度のゼミ履修学生を対象に文化人類学入門の授業を実施した。まず、文化人類学の概要を講義形式で説明し、次に、松田・川田（2002）『エスノグラフィー・ガイドブック』に収録されている人類学関連書籍から興味のあるものを学生に1冊ずつ選んでもらい、各書籍の内容を実物と板書を活用して説明した。その後、当該書籍を選んだ学生が関連テーマで口頭発表をおこなえるように指導し、発表の実施ならびに発表後のディスカッションをおこなう形でゼミ授業をおこなった。</p>
<p>8) 大学院修士課程の学生に対する修士論文副査としての論文執筆指導</p>	<p>平成22年4月－ 平成24年3月</p>	<p>金沢星稷大学大学院経営戦略研究科修士課程の学生の副査を各年1-2名担当し、論文提出までに数回実施される口頭発表会での指導、ならびに論文提出までの執筆指導を随時おこなった。具体的には、日本におけるスポーツ・ツーリズムによる地域振興や中国における地域の食文化を生かした観光開発などをテーマとする修士論文の副査としての指導を実施した。</p>
<p>9) 教科書を活用した大学初年次におけるスタディ・スキルの授業ならびにキャリア教育の実施</p>	<p>平成23年4月－ 平成24年3月</p>	<p>金沢星稷大学経済学部1年次の必修科目「基礎ゼミナールⅠ」を担当し、23名の学生に対して学習技術研究会（2006）『知へのステップ』を活用した、大学生活に必須なスタディ・スキルの授業をおこなった。また、同大学1年次共通のキャリア教育も実施し、業界研究に関する課題レポートの執筆ならびに口頭発表の準備・実施の指導もおこなった。</p>
<p>10) 英日バイリンガルによる、自作のPowerPointスライドや印刷物等を活用した講義形式による観光関連科目の授業の実施</p>	<p>平成24年4月－ 現在</p>	<p>多摩大学グローバルスタディーズ学部にて英語・日本語による観光関連科目（Tourism: Global and Local Perspective、Tourism I、Tourism II、Tourism IV）の講義を20人程度の履修者を対象に実施、自作のPowerPoint形式のスライドや印刷物等を活用して、文化人類学、社会学等の観光・レジャー研究を基にした授業を実施している。講義の中では、英語の基礎文献の内容にできるだけ触れられるように努め、また履修者の理解度を深めるために日本および世界の文化や社会に関する事例を紹介している。授業では、ほぼ毎回、学生に課題の提出を求めている。</p>

11) 日英バイリンガルによる、自作のPowerpointスライドや印刷物等を活用した講義形式による日本研究に関する授業の実施	平成24年4月－現在	多摩大学グローバルスタディーズ学部にて英語・日本語による日本研究に関する科目（Japanese Culture and Society、Japanese Cultures in the World、Globalization and Global Japan）の講義を平均20－30人程度の履修者を対象に実施、自作のPowerPoint形式のスライドや印刷物、動画等を活用して、文化人類学ならびに民俗学における日本研究を基にした授業を実施している。講義の中では、履修者が日本の文化・社会を英語で理解するだけでなく、英語で表現できるように心がけている。授業では、必要に応じて学生に課題の提出を求めている。
12) 英日バイリンガルによる、質的調査方法論を教授する授業の実施	平成24年9月－現在	多摩大学グローバルスタディーズ学部にて英語・日本語による質的調査方法論（Ethnographic Fieldwork、Qualitative Research Methods）の講義・演習を10－25人程度の履修者を対象に実施している。自作のPowerpointや印刷物を利用してアンケート、インタビュー、参与観察等の調査手法を教授し、履修者に演習形式で実際に模擬調査を実施してもらっている。平成25年度においては、藤沢市観光協会による観光客対象のアンケート調査の分析も同協会の依頼を受けて授業の一環で実施した。
13) 大学院における、英語での人間の安全保障についての授業の実施	平成25年7月	東北大学大学院集中講義「ヒューマンセキュリティと社会」において、90分×3コマ分を分担し、地域振興に向けた自然の制度化や保護についてすべて英語で講義を実施した。履修者が最終課題として提出した英語の論文を他の担当者と共に審査した。
14) ゼミナール形式による、観光・地域貢献・国際交流の授業の実施	平成26年8月－現在	多摩大学グローバルスタディーズ学部にて、観光・地域貢献・国際交流をテーマにゼミナールを開催している。平成26年度は受講生とともに藤沢市観光協会のアドバイスを仰ぎながら、藤沢市の観光サービス向上を実現するために外国人旅行者へのアンケート調査の準備を進め、平成27年度以降は藤沢市観光協会から外国人アンケート調査を受託している。
15) ゼミナール単位による海外短期留学の実施（引率業務）	平成27年2月	多摩大学グローバルスタディーズ学部にて、ゼミ単位でのマカオ大学・香港への海外短期留学に学生を引率した。堂下ゼミナールからは5名の学生が参加し、マカオ大学でのプログラムや香港での観光にかかる視察を実施した。引率教員の1人として、準備や現地での実施に参画した。
16) 大学院博士課程の学生に対する博士論文副査の担当	平成27年4月－現在	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の博士課程の学生の英語による博士論文の副査を引き受け、中間発表でのコメントならびに評価を実施した。当該学生が博士論文を提出し学位を取得するまで副査を担当する予定である。
2 作成した教科書、教 1) 金沢星稜大学経済学部地域教材編集委員会編『ふるさと石川を知る 地域を学ぶ』	平成21年3月	金沢星稜大学経済学部2年次設置科目「基礎ゼミナールⅡ」における副教材としての使用を目的に作成された書籍であり、委員として執筆・編集に携わった。
2) 金沢星稜大学卒論マニュアル委員会編『論文作成ガイドブック』	平成23年3月	金沢星稜大学卒論マニュアル委員会の委員長として、5名の委員と共同で学部4年次に課せられる卒業論文・卒業研究報告書のマニュアル作成をおこなった。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 1) 金沢星稜大学授業評価アンケートによる学生満足度		金沢星稜大学では学期毎に授業評価アンケートを実施している。例えば、平成23年度前期における評価該当2科目の学生満足度平均は以下のとおりである。 ※4段階評価で4が最高。 ・観光地歴論 3.8 ・ビジネス・イングリッシュa 3.4

<p>2) 多摩大学グローバルスタディーズ学部授業評価アンケート「Voice」による学生満足度</p>		<p>多摩大学グローバルスタディーズ学部では学期ごとに授業評価アンケート「Voice」を実施している。平成27年度春学期は専門科目で、8年度春学期はCore科目で、Teaching Excellence Awardを受賞した。平成28年秋学期の評価は以下のとおりである。 ※5段階評価で5が最高。 ・Tourism II (B) 科目評価 4.63、教員評価 4.79 ・Tourism II (C) 科目評価 4.67、教員評価 4.67 ・Tourism IV 科目評価 4.64、教員評価 4.64</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) 産業・理科教育教員派遣実施制度に基づく研修生の聴講受け入れ</p> <p>2) 学生による観光関連のコンテストへの応募にかかる指導</p> <p>3) 市民向け講座における観光まちづくりに関する専門的知識の提供</p> <p>4) 市民向け講座の運営と観光に関する専門的知識の提供</p> <p>5) 市民向け講座での観光に関する専門的知識の提供</p> <p>6) 市民向け講座での観光に関する専門的知識の提供</p> <p>7) ボランティアガイド研修会での観光に関する専門的知識の提供</p>	<p>平成19-21年度</p> <p>平成24年度</p> <p>平成26年2月</p> <p>平成27年2月</p> <p>平成27年12月</p> <p>平成29年2月</p> <p>平成29年3月</p>	<p>金沢星稜大学が石川県内の商業高校から産業・理科教育教員派遣実施制度に基づく研修生を受け入れたことに伴い、担当する観光関連科目への聴講を受け入れ、随時質問等に対応した。また、関係者として研修生の研究発表・修了式に参加した。</p> <p>多摩大学グローバルスタディーズ学部所属学生が「大学生観光まちづくりコンテスト2012」へ自主的に参加する際にアドバイザーを務めた。学生らが箱根湯本で訪日外国人らに実地調査をし「言語のバリアフリー化～箱根の国際観光地化計画～」としてまとめるにあたって随時指導をおこない、予選を突破してポスターセッション部門本選に進むサポートをした。</p> <p>多摩大学が開催した「多摩大学藤沢観光まちづくり大学院2013」において、講師の1人を務めた。「訪日外国人に藤沢の魅力を理解してもらうには」という題目で藤沢市における訪日外国人旅行者の誘致や対応について専門的知識を提供した。</p> <p>多摩大学が開催した「藤沢市民講座」の運営担当教員の1人として事務局との事前準備やプログラム策定を担当し、当日は「外国人旅行者の動向」という題目で発表した他、ワークショップも含めた午後の司会を担当した。</p> <p>藤沢市・藤沢市観光協会・多摩大学観光連携等協力協定締結記念「グローバル化する観光産業の人材育成と活用IV」シンポジウムにて、同提携にかかる教育ならびに調査研究の取り組みを発表した。</p> <p>藤沢市民講座2017「東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて」において、地域活性化委員として運営に携わり、「大いなる多摩学会「湘南藤沢におけるインバウンドプロジェクトについて」」の発表も実施した。</p> <p>公益社団法人藤沢市観光協会主催「平成28年度観光おもてなし研修会」に講師として招聘され、「観光のおもてなしについて～藤沢市・多摩大学・藤沢市観光協会三者連携をふまえて～」について講演をおこない、ディスカッションの運営にも関わった</p>
<p>5 その他</p> <p>大学コンソーシアム石川の地域課題研究ゼミナール支援事業における優秀賞受賞(2回)</p>	<p>平成20年1月、平成23年2月</p>	<p>大学コンソーシアム石川では毎年度地域課題研究ゼミナール支援事業を実施し、優秀な成果を収めたゼミナールに賞を授与している。金沢星稜大学堂下ゼミナールとして、これまでに2回優秀賞を受賞した</p>
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
<p>1 資格、免許</p> <p>1) TOEIC</p>	<p>年月日</p> <p>平成13年11月</p>	<p>概 要</p> <p>890点取得</p>

2) IELTS (International English Language 3) ケンブリッジ上級英語 (Cambridge English:	平成13年11月 平成15年2月	7.5 取得 合格
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 石川県白山市の「吉野工芸の里整備計画策定委員会」における委員活動	平成22-23年度	石川県白山市の吉野工芸の里および周辺地区の整備にかかる委員会に、学識経験者の1人として参加し、同地域の交流人口の増加を見据えた整備について他の委員と意見をまとめた。
2) 石川県白山市の「白山ろく地域活性化策定会議」における委員活動	平成22-23年度	石川県白山市の白山ろく地域活性化に関する会議に学識経験者として参加し、同地域の多くの住民や市職員とともに、ボトムアップの形で地域活性化を議論した。随時、専門的知識を他の委員に共有し、様々な提案がまとめられた。
3) 神奈川県藤沢市の「藤沢市江の島岩屋指定管理者審査選定委員会」・「藤沢市江の島サムエル・コッキング苑指定管理者審査選定委員会」における委員活動	平成24年度	神奈川県藤沢市の指定管理者審査選定にかかる委員を、観光研究を専門とする学識経験者として務めた。藤沢市の観光において重要な江の島岩屋ならびに江の島サムエル・コッキング苑の管理に関して、藤沢市行政ならびに住民にとって最適だと思われる指定管理者の選定に協力した。
4) 神奈川県藤沢市の「藤沢市観光振興計画見直し検討会議」への参画	平成26年3-5月	神奈川県藤沢市観光振興計画における策定3年後の見直し検討会議に、観光研究を専門とする学識経験者として参画し、藤沢市内の観光関係者や市職員とともに同計画の改善案を検討した。
5) (社) 藤沢市観光協会「藤沢・江の島多言語観光Web Site事業者選定委員会」における委員活動	平成27年7-8月	(社) 藤沢市観光協会が開設する多言語観光ウェブサイトを開発する事業者を選定する委員会に、観光を専門とする学識者として参画し、事業者選定に協力した。同ウェブサイトは「Discover Fujisawa」として平成28年2月時点で記者発表・公開済みである。
4 その他 1) 大学講義情報の無料公開 (OpenCourseWare) にかかる日英バイリンガルでの職務経験	平成17年4月- 平成18年3月	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構における助手の職務として、大学講義情報の無料公開を実施するOpenCourseWare (OCW) の同大学内での運営ならびに日本オープンコースウェア連絡会の事務局運営に携わった。この職務では、日英両言語を活用して日米の関係者との渉外をおこなったり、講義内容の下訳等を実施した。
2) 文化人類学的日本研究に関する国際定例ワークショップの運営	平成23年4月	日本に在する文化人類学を中心とする日本研究者による任意団体「Anthropology of Japan in Japan」の平成23年度春季定例ワークショップの運営責任者を金沢大学のJohn Ertl准教授と2人で務めた。同ワークショップ運営においては「コミュニティ」をテーマに決定して参加者を募り、主に英語で、日本における多文化共生やマイノリティ、伝統文化の保存と継承等、多様な発表がおこなわれた。なお、直前に起きた東日本大震災について特別セッションも企画した。
3) 北陸人類学研究会 (日本文化人類学会北陸支部) 第121回例会の運営	平成23年11月	日本文化人類学会北陸支部である北陸人類学研究会の第121回例会の運営責任者を担当し、「ジェンダー」をテーマに研究会を実施した。具体的には、日本の同性愛者、遊興飲食業に携わる女性、腐女子をテーマとする発表をとりまとめた。
4) 国際社会学会国際観光部会 (Research Committee 50) における分科会のオーガナイザー	平成26年7月	平成26年7月に横浜で開催された国際社会学会の世界大会において、分科会「Ethical Dimensions of Tourism Practices」のオーガナイザーを務め、6人の発表をとりまとめた。

5) 藤沢市・多摩大学・藤沢市観光協会の観光連携等協力協定締結にかかる多摩大学の担当	平成27年11月 —現在	平成27年11月に藤沢市、藤沢市観光協会と多摩大学が観光連携等協力協定を締結したことを受け、多摩大学の連携にかかる教員担当を拝命し、業務を担っている。直近では、平成28年1月以降は藤沢市多言語メニューサイト講習セミナーにかかる教職員・学生協力のとりまとめ等の運営をおこなっている。
--	-----------------	--

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 『現代人類学のプラクシス』	共著	平成17年11月	有斐閣	第13章「観光における自然の資源化と環境保護」(pp. 209-220)を分担執筆した。山下晋司・福島真人編。世界の観光実践において、自然を対象とする観光が2割を占めることをふまえ、観光対象となる自然が歴史的文化的フィルターを通して資源化されることを明示し、地域住民や旅行者、観光客等の多様な主体による観光実践を京都府美山町を事例として論じた。
2 『比較思想文化論集 観光・環境・共生』	共著	平成18年10月	三一書房	「日本の環境観光における「自然」：各観光関連主体の捉え方」(pp. 129-143)を分担執筆した。朱洪東編集代表。生業等で歴史的に活用されてきた自然が観光対象となった場合、地域住民や観光客等、主体によって自然の捉え方が異なっている。京都府美山町を事例に、各主体が観光資源とし
3 『資源化する文化』	共著	平成19年12月	弘文堂	「里山の資源化—京都府美山町の観光実践より」(pp. 273-302)を分担執筆した。山下晋司編。観光資源の特徴を簡潔に確認した上で、観光における自然や環境が関係主体によって主観的に創られる文化的なものだと論じ、例として「里山」の意味するものが村落周辺の薪炭林から包括的な農村環境のセットへと変わったことを提示した。その上で、里山を活用した観光実践を京都みどころ5「グリーンツーリズム—京都府美山町」(pp. 115-118)を分担執筆した。山下晋司編。グリーンツーリズムという用語の意味が日本語と英語では異なることを示した上で、都市生活者が農村を称賛するようになった経緯、ならびに農村における諸問題の解決策として観光が脚光を浴びるようになった過程を紹介した。
4 『観光文化学』	共著	平成19年12月	新曜社	第4章「日本の自然と地域観光振興」(pp. 85-102)を分担執筆した。大藪多可志・大内東編。日本における自然環境ならびに自然観の特徴を記し、その上で環境保護・保全と地域観光振興について京都府美山町の事例から論じた。
5 『北東アジア観光の潮流』	共著	平成20年4月	海文堂	金沢星稜大学経済学部地域教材編集委員会編集による地域教材。委員として「能登の人々の暮らしと祭り—キリコ祭りの伝統と活性化—」を分担執筆した。石川県奥能登地域の伝統祭礼であるキリコ祭りを紹介し、その上で地域と大学が協力して実施している外部者参加による祭礼保存プロジェクトの内容を記した。
6 『ふるさと石川を知る 地域を学ぶ』	共著	平成21年3月	金沢星稜大学出版会	

7 『里山観光の資源人類学－京都府美山町の観光振興』	単著	平成24年2月	新曜社	東京大学大学院に提出し、博士号（学術）を取得した論文をもとに科学研究費補助金によって出版した成果図書。これまでの文化人類学および観光学における観光、環境、資源についての先行研究を精査し、日本の二次的自然の観光資源化について論じた。その上で、京都府美山町の観光振興を対象に文化人類学的手法でおこなった調査結果の分析を記述し、環境観光における自然の資源化とその活用、ならびに地域社会への影響を論じた。
8 『復興ツーリズム』	共著	平成25年3月	同文館出版	「震災ボランティア・ツアーを復興交流プログラムへと発展させよう」を分担執筆した。総合観光学会編。実際にプロジェクトに関わった石川県能登地方の伝統祭礼活性化の取り組みと同地域の震災復興との関係を紹介しながら、震災ボランティア・ツアーを発展させる方策や注意点を論じた。
9 『人の移動事典』	共著	平成25年11月	丸善出版	「田舎観光、田舎暮らし－グリーンツーリズムの現在」を分担執筆した。吉原和男責任編集。日本人を含むアジアの人々の移動を多くの学問分野から考察することを目的に編纂された事典において、田舎観光／農村観光の国内外の動向をまとめた。
10 『Encyclopedia of Tourism』	共著	平成28年	Springer	「Cosmopolitanism, Tourism」を分担執筆した。Jafar Jafari and Honggen Xian編集。国際的な観光学事典の再編集にかかり、新たな項目となる左記の内容を英語で執筆した。平成28年3月現在、オンライン上で先行出版されている。
(学術論文)				
1 「エコツーリズムにおける「自然」－「日本型エコツーリズム」研究の前提として」	単著	平成15年11月	『総合観光研究』第2号	西洋と日本の自然観の違いに着目しながら、エコツーリズムにおける「自然」の意味するところを再検討し、日本におけるエコツーリズムの在り方を議論した。
2 「グリーン・ツーリズムによる地域振興－京都府北桑田郡美山町の事例から」	単著	平成16年	『農』277	国内外におけるグリーン・ツーリズムの特徴を精査し、京都府美山町での観光まちおこしの事例に触れながら、グリーン・ツーリズムによる地域振興を論じた。
3 「大学における講義情報公開－慶應OCWにおける課題の抽出と分析－」	共著	平成18年3月	『日本教育工学会研究報告集』JSET06-2	第一執筆者として発表。大学の講義情報公開を行っている慶應義塾大学OCWプロジェクトにおける課題について、ログデータや関連教員のインタビューに基づいて分析した。共著者は福原美三。
4 「キリコ祭り体験参加による地域振興の検討」	単著	平成20年2月	『北海道大学観光創造フォーラム報告要旨集』	過疎化・高齢化の影響で存続が危ぶまれる石川県奥能登地域の伝統祭礼・キリコ祭りについて、外部者参加による活性化を提案し、体験参加試行の結果を報告した。
5 「祭事への外部者参加を通じた体験型観光および地域活性化の検討」	単著	平成20年11月	『日本観光研究学会第23回全国大会論文集』	過疎化・高齢化によって存続が危ぶまれる日本各地で伝統祭礼について、京都府と石川県の2つの事例から、祭礼に外部者を巻き込むことによる効果や課題を分析した。
6 「外部者と地域住民との継続的交流による観光スタイルの提案」	共著	平成20年11月	『日本観光研究学会第23回全国大会論文集』	観光実務者・指導学生と共同で石川県の伝統祭礼・キリコ祭りを中心とした地域住民と外部参加者の通年交流モデルを検討し、今後の方向性を提示した。共著者は政田将昭、水本恵一。
7 「伝統祭事「キリコ祭り」における体験参加の受け入れ体制整備の提案」	共著	平成20年11月	『日本観光研究学会第23回全国大会論文集』	観光実務者・指導学生と共同で石川県の伝統祭礼・キリコ祭りへの体験参加モニターツアーの試行を通じた外部者受け入れ参加の方策を議論した。共著者は小泉洋子、飯田知也。

8 「祭事への参加による体験型観光と地域活性化」	単著	平成21年3月	『季刊まちづくり』22号	石川県の伝統祭礼・キリコ祭りにおける外部者参加による活性化について、平成19年度から実施してきた調査研究を総括した。
9 「体験型観光による地域行事の活性化」	単著	平成21年3月	『金沢星稜大学 総合研究所年報』29号	金沢星稜大学学内共同研究で実施した、石川県の伝統祭礼・キリコ祭りの活性化に関する調査研究活動の報告を実施した。
10 ‘Rethinking Environmental Tourism: The Case of Miyama, Kyoto Prefecture’	単著	平成21年年	“Japanese Review of Cultural Anthropology”, Volume 10	京都府美山町の観光振興についての文化人類学的手法による調査研究結果を、景観と里山という概念に着目して分析し、英文にて発表した。
11 ‘Rural Settings as Cultural Resources: Environmental Tourism Practices in Miyama Town, Japan’	単著	平成22年3月	“Cultural Resource Studies Asian Linkage Building Seminar 2010 Working Papers”	金沢大学の「アジア文化資源学リンケージの構築」に関する講演やシンポジウムの成果をまとめた論集に掲載された論文。日本の里山を文化資源と捉えて観光での活用を論じた。
12 『京都府美山町における環境観光－資源人類学のパースペクティブ』【博士論文】	単著	平成22年3月	東京大学大学院	東京大学大学院に提出し、博士号（学術）を取得した論文。これまでの文化人類学および観光学における観光、環境、資源についての先行研究を精査し、日本の二次的自然の観光資源化について論じた。その上で、京都府美山町の観光振興を対象に文化人類学的手法でおこなった調査結果の分析を記述し、環境観光における自然の資源化とその活用、ならびに地域社会への影響を論じた。
13 ‘Rural Landscape and Tourism Development in Japan: A Case Study of Kita village, Miyama Town, Kyoto’	単著	平成22年6月	“Tourism and Glocalization: Perspectives on East Asian Societies” Min Han and Nelson Graburn (eds.), Senri Ethnological Studies 76	国立民族学博物館が発行する英語の論文集に掲載された論文。重要伝統的建造物群保存地区に指定された京都府美山町北の観光実践を文化人類学的視点から考究した。
14 「「まるごと白山ファンクラブ」活性化の検討ー広域合併後の観光まちおこしに向けてー」	単著	平成22年11月	『第25回日本観光研究会全国大会学術論文集』	石川県白山市では、市町村合併後の観光振興のために「まるごと白山ファンクラブ」を設立したが、運営の試行錯誤が続いている。大学コンソーシアム石川の支援事業として同組織の活性化について調査した結果をまとめた。
15 Diverse Stakeholders’ Participation in Tourism Practices: Rural Revitalization in Japan.	単著	平成23年3月	“Report of the International Symposium: Exploring Ethnicity and the State in East Asia through Tourism”, Kanazawa University College of Humanities and Social Sciences.	金沢大学主催の国際シンポジウムの成果をまとめた論文集に掲載された論文。日本の観光実践における主体の多様性について、京都府美山町と石川県奥能登地域の事例から論じた。

16 「平成の合併後における地域コミュニティ-白山ろく地域の事例より」	単著	平成23年8月	『金沢星稷大学論集』第45巻、第1号	平成の合併によって、地域コミュニティには様々な変化が生じている。この論文では、日本国内におけるコミュニティの変遷を確認した上で、石川県白山ろく地域を対象とした複数のアンケート調査結果を基に、今後の地域コミュニティの在り方を検討した。
17 「二次的自然の観光資源化の再考-SATOYAMAのグローバル化を踏まえて」	単著	平成25年12月	『第28回 日本観光研究学会 全国大会 学術論文集』	観光実践において、国内外で二次的自然への注目が高まり、農村や里山、棚田といった言葉で観光資源として紹介されることが多くなった。複数の角度から二次的自然の観光資源化を整理し、その上でSATOYAMAのグローバル化を踏まえて日本的な二次的自然の捉え方が世界にどう広がる可能性があるのか論じた。
18 「The Globalisation of Symbolic Concepts of Nature: A Case Study of satoyama」	単著	平成27年3月	Bulletin, Issue 7, Tama University School of Global Studies	象徴的な自然の越境について、日本の里山を事例に取り上げ、里山の地域から国レベル、国レベルから国際レベルへの浸透について精査した。
(その他) 学会発表				
1 「エコツアーガイドに関する一考察-マレーシア・ボルネオ島、北海道知床半島、京都府美山町の事例を通じて」	単著	平成16年6月	総合観光研究学会第6回全国学術研究大会 (於千葉大学)	学会での口頭発表。国内外の異なる自然環境の中で展開されるエコツアーにおいて、ガイドの役割や説明の差異がどのようなものか検討した。
2 'Nature as a Cultural Resource: Ecotourism in Japan'	単著	平成16年11月	American Anthropological Association Annual Meeting, Society for East Asian Anthropology (於 University of California, Berkeley)	アメリカ人類学会東アジア部会での口頭発表。観光対象としての「自然」は人々の主観によって構築されると論じた上で、日本のエコツーリズム実践について京都府の事例を紹介して検討した。
3 'Different Perceptions of Rural Environment in a Japanese-style Green Tourism Practice'	単著	平成17年3月	Japan Anthropology Workshop, 16th Conference (於 University of Hong Kong)	ヨーロッパを拠点とする日本研究者の学会での口頭発表。日本のグリーン・ツーリズムにおいて、観光関連主体がどのように「自然」を捉えているのか、京都府美山町の事例をもとに分析し、今後のグリーン・ツーリズムの在り方を論じた。
4 「里山における観光実践-京都府北桑田郡美山町における事例から」	単著	平成17年5月	日本文化人類学会第39回研究大会 (於北海道大学)	学会での口頭発表。京都府美山町の観光実践の事例をもとに、里山を対象とする観光について複数の主体の意識を分析した。
5 'Local Revitalisation and Rural/Green Tourism: A Case Study of Miyama, Kyoto Prefecture'	単著	平成17年11月	Anthropology of Japan in Japan, the 8th Annual Meeting	日本に拠点を置く日本研究者の学会での口頭発表。京都府美山町の観光実践の事例をもとに、グリーン・ツーリズムによる観光まちおこしの現状と今後について論じた。
6 「資源としての里山景観-日本の農村における環境観光実践から」	単著	平成18年6月	日本文化人類学会第40回研究大会 (於東京大学)	学会での口頭発表。「里山」の解釈が時代とともに変化していることを指摘したうえで、「里山」と称される農村環境で展開される観光実践の事例を紹介、分析した。
7 「東アジアの環境観光における資源としての自然」	単著	平成18年10月	環日本海学会第12回学術研究大会 (於金沢星稷大学)	学会での口頭発表。非西洋的な自然を対象とする環境観光が、今後どのように東アジアの発展に役立つか論じた。
8 「外部者参加による伝統祭事の活性化」	単著	平成21年5月	日本文化人類学会第43回研究大会 (於国立民族学博物館・大阪国際交流センター)	学会での口頭発表。過疎化・高齢化で存続が危ぶまれている伝統祭礼・キリコ祭りの外部者参加による活性化について、実践人類学ならびに人類学の社会貢献に触れながら論じた。

9 'Rethinking Environmental Tourism: A Case of Miyama Town, Kyoto Prefecture'	単著	平成21年7月	Society for East Asian Anthropology and Taiwan Society for Anthropology and Ethnology Taipei 2009 (於Insititute of Ethnology, Academia Sinica, Taipei, Taiwan)	アメリカ人類学会東アジア部会における分科会 "New Trends of Tourism/ Migration in Japan and Beyond" でおこなった口頭発表。京都府美山町の事例をもとに、環境観光を再考した。
10 'Satoyama, the Culturally Constructed Landscape and Rural Tourism Development in Japan'	単著	平成21年8月	The 16th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (於Yunnan University, China)	5年に一度行われる世界の人類学・民族学大会での分科会でおこなった口頭発表。世界遺産や文化財制度における二次的自然の位置づけや観光資源化について、京都府美山町の事例から分析した。
11 'The Formation of Satoyama: Towards Restructuring Rural Societies in Japan'	単著	平成22年7月	11th European Association of Social Anthropologists Biennial Conference, European Association of Social Anthropologists (於 National University of Maynooth,	ヨーロッパ社会人類学会が隔年開催している大会での口頭発表。日本の里山観光の事例をもとに、農村がどのように活性化を實踐しているのか、文化人類学的調査結果を基に成果を発表した。
12 'Seeking New Communities since the Heisei Amalgamation: A Case Study of the Hakusanroku Region'	単著	平成23年4月	Anthropology of Japan in Japan 2011 Annual Spring Workshop, Anthropology of Japan in Japan (於 Kanazawa University)	日本に拠点を置く日本研究者の学会での口頭発表。石川県白山市白山ろく地域の事例をもとに、平成の大合併後のコミュニティの変化を分析し、成果を報告した。
13 'The Enhancement of Rural Environments for Tourism Development: An Analysis of the Nature of Tourism Resources with reference to Rural Tourism Development in Japan'	単著	平成23年8月	The 1st Shangri-lasia Tourism International Conference (於 Paradise Hotel, Shangri-la, Yunnan Province, China)	国際社会学会 (ISA) の観光に関する部会 (RC-50) が共催した国際フォーラムでの口頭発表。日本の農村観光の事例から、観光資源の本質について分析し、その成果を発表した。
14 「市町村合併と地域コミュニティ」	単著	平成23年11月	北陸人類学研究会 (日本文化人類学会北陸支部) 第121回例会 (於石川四高記念文化交流館)	日本文化人類学会北陸支部である北陸人類学研究会の第120回例会での口頭発表。日本における全国規模の市町村合併の歴史を確認した上で、行政単位と生活単位としてのコミュニティの差異ならびに日本社会におけるコミュニティの変容を論じ、石川県白山市白山ろく地域で実施した複数の調査結果を基に今後の地域コミュニティの在り方を検討した。
15 「日本における市町村合併後の地域コミュニティとアイデンティティの変化」	単著	平成24年6月	日本文化人類学会第46回研究大会 (於 広島大学)	日本文化人類学会第46回研究大会での口頭発表。日本における全国規模の市町村合併の歴史を確認した上で、平成の市町村合併によって引き起こされる地域コミュニティならびにアイデンティティの変化を石川県白山市白山ろく地域での事例を基に論じた。

16 'The de-territorialisation and re-territorialisation of environmental perspectives with reference to satoyama tourism in and beyond Japan'	単著	平成25年8月	International Geographic Union 2013 Kyoto Regional Conference (於 Kyoto International Conference Center, Japan)	2013年京都国際地理学会議での口頭発表。日本の里山での観光実践を参照しながら、自然観や環境の捉え方がどのように越境してグローバル化していくのかを論じた。
17 Rethinking the concept of satoyama in and beyond Japan	単著	平成25年10月	Research Forum, School of Global Studies, Tama University	多摩大学グローバルスタディーズ学部FD主催のResearch Forumにて、日本の「里山」の意義の変遷を説明し、その上で、国際的に「satoyama」がどのように受容されつつあり、また浸透しつつあるのか述べた。
18 「おもてなしのグローバル化への貢献—多摩大学の教育現場から」	単著	平成26年2月	「グローバル化する観光産業の人材育成と活用」シンポジウム (於 グランドホテル湘南)	多摩大学グローバルスタディーズ学部主催の寺島実郎学長基調講演によるシンポジウムでの口頭発表。訪日外国人旅行者の増加を踏まえ、おもてなしをキーワードに訪日外国人と観光関係者のコミュニケーションで注意すべき点をまとめ、紹介した。
19 An Analysis of key terms related to environmental tourism and protection: with reference to satoyama	単著	平成26年5月	International Union of Anthropological and Ethnological Sciences 2014 with the Japanese Society of Cultural Anthropology/日本文化人類学会50周年記念国際大会 (於 Makuhari Messe International Convention Complex, Chiba/幕張メッセ)	日本文化人類学会50周年記念国際研究大会での口頭発表。ヨーロッパ社会人類学会ならびに日本文化人類学会の共催分科会「Keywords of human mobility」において、「里山/satoyama」の意義の変化に着目しながら日本の環境観光について考察し、象徴的な自然の越境を検討した。
20 「観光と保護制度の関係についての再考-日英の事例の比較-」	単著	平成26年6月	総合観光学会 (於 下関市生涯学習プラザ)	観光資源生成のカギとなる保護制度に着目し、世界遺産制度、特に文化的景観に対する地域住民の受け止め方の違いをイギリス・コーンウォール地方での実地調査を元に報告した。
21 「グローバリゼーションの新たな視座の検討：世界遺産「コーンウォールと西デヴォンの鉱山景観」の事例より」	単著	平成27年5月	日本文化人類学会第49回研究大会 (於 大阪国際文化センター)	イギリス・コーンウォールでの実地調査と文献調査をもとに、世界遺産に登録されている鉱山景観の現地での意義やコーンウォール住民の意見等を分析し、研究発表をおこなった。
22 「Multiple roles of enterprises in communities: A case study of Miyama Furusato Company in Japan」	単著	平成28年5月	International Union of Anthropological and Ethnological Sciences Inter Congress 2016 (於 Dubrovnik, Croatia)	企業人類学/経営人類学の見地から、日本の農村における町おこし関連企業の実践と地域の関わりについて再考した。
23 「大学の地域貢献としての外国人来訪者実態調査」	単著	平成28年7月	統計関連学会連合大会 (於 金沢大学)	多摩大学堂下ゼミナールで受託している「江の島外国人アンケート調査」に関して、インバウンド観光政策等の現状を踏まえながら、データの将来的な活用について論じた。
24 「Multiple understandings and uses of Mount Fuji as a World Heritage site」	単著	平成28年10月	East Asian Anthropological Association 2016 Meeting in Sapporo (於 北海道大学)	日本の富士山について、宗教ならびに観光での利用の変遷を再考し、世界遺産登録に向けての議論における視座や今後の展望について論じた。

25 「世界遺産・富士山の多様な利用の再考」	単著	平成28年11月	総合観光学会第31回全国学術研究大会（於千葉大学）	世界遺産・富士山について、日本人にとっての位置づけの歴史的変遷を再考し、今後の研究における視座を論じた。
翻訳 1 『高等教育におけるeラーニング—国際事例の評価と戦略』	共訳	平成18年7月	東京電機大学出版局	翻訳。第1章「eラーニングの学習機会提供と登録学生数」（pp. 24-61）と付録の翻訳、編集支援を担当した。OECD教育研究革新センター編著、慶應義塾大学DMC機構訳、共訳者は伊藤健二、福原美三、田村恭久、
書評  1 Review on “Tourism in Japan: An Ethno-Semiotic Analysis”, by Arthur Asa Berger. Bristol, UK: Channel View Publications, 2010	単著	平成23年夏期	“Social Science Japan Journal”, Volume 14, Number 2	日本の観光について書かれた洋書についての書評。取り上げた書物における日本の表象の批判点と観光実践への活用の可能性を示した。
学会等での通訳 1 Nelson Graburn 「Fragile Culture: What Parts Shall We Save and for Whom?」の講演通訳	単独訳	平成16年6月	総合観光研究学会第6回全国学術研究大会（於千葉大学）	総合観光研究学会第6回全国学術研究大会における英語での特別講演の通訳。
2 Nelson Graburn 「Reconstructing Tradition: Ethnic Tourism and Modernity in China and Japan」の講演通訳	単独訳	平成22年11月	金沢大学文化資源学国際シンポジウム「観光から見る東アジアのエスニシティと国家」（於金沢大学）	金沢大学文化資源学国際シンポジウム「観光から見る東アジアのエスニシティと国家」における英語での講演の通訳。
学会等でのディスカッション 1 「山下晋司教授退職記念シンポジウム「新しい地球」の生き方」のディスカッション	単独	平成25年3月	東京大学大学院「山下晋司教授退職記念シンポジウム「新しい地球」の生き方」（於東京大学）	東京大学大学院総合文化研究科山下晋司教授の退職を記念するシンポジウムにおいて、ディスカッションとして同教授の指導によって博士（学術）を取得した5名の発表についてコメントを述べた。
2 国際社会学会国際観光部会基調講演「Tourism Issues in Japan and China」のディスカッション	単独	平成26年7月	国際社会学会第18回世界大会（於バンフィコ横浜）	Professor Graburnによる国際観光部会（Research Committee 50）の基調講演におけるディスカッションの1人を務め、日本の観光研究の発展と現状についてコメントを述べた。
競争的研究費の獲得 1 科学研究費特別研究員奨励費	単独	平成16年度	文部科学省／日本学術振興会	研究課題名「日本型エコツーリズムに関する研究：京都府美山町の事例研究を通じて」。平成17年度は常勤職就職により特別研究員ならびに同奨励費は辞退
2 大学コンソーシアム石川 平成19年度地域課題研究ゼミナール支援事業	担当ゼミナール単独	平成19年度	大学コンソーシアム石川	提案課題名「観光客のキリコ祭り体験参加による地域振興の検討」、金沢星稜大学堂下ゼミナール単独で採択
3 大学コンソーシアム石川 平成21年度地域課題研究ゼミナール支援事業	共同	平成21年度	大学コンソーシアム石川	提案課題名「交通環境の変化による白山市内観光動向調査と観光誘客のための二次交通に関する調査研究」、金沢大学高山ゼミナール・同伊藤ゼミナール・金沢星稜大学堂下ゼミナール、共同で採択
4 大学コンソーシアム石川 平成22年度地域課題研究ゼミナール支援事業	担当ゼミナール単独	平成22年度	大学コンソーシアム石川	提案課題名「民俗行事の特徴にあわせた保存・継承方法の検討—七尾市中島地区を事例として—」、金沢星稜大学堂下ゼミナール単独で採択

5 大学コンソーシアム石川 平成22年度地域課題研究ゼミナール支援事業	共同	平成22年度	大学コンソーシアム石川	提案課題名「超高齢社会に対応した白山麓地域の魅力創生戦略と若者定住計画 ～地域生活交通の改善と若者定住プラン～」、金沢大学高山ゼミナール・金沢星稜大学堂下ゼミナール共同で採択
6 科学研究費補助金研究成果公開促進費	単独	平成23年度	日本学術振興会	研究成果公開促進費・学術図書。同補助金による刊行物の名称：『里山観光の資源人類学』
7 科学研究費補助金若手研究	単独	平成25年度－平成27年度	日本学術振興会	研究課題名「越境する象徴的な自然についての文化人類学的研究」
8 科学研究費補助金基盤研究	分担者	平成29年度－平成31年度	日本学術振興会	研究課題名「世界遺産と防災：アジアにおけるヘリテージツーリズムの持続的発展のために」
その他調査研究費の獲得 1 公益社団法人藤沢市観光協会との調査委託契約	単独	平成27年度－現在	公益社団法人藤沢市観光協会	公益社団法人藤沢市観光協会の江の島外国人アンケート調査にかかるアンケート作成・集計・分析を担当する堂下ゼミナールで委託した。委託契約名は「多摩大学グローバルスタディーズ学部堂下ゼミナールアンケート調査」